



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈りに参加
5. 聖書研究・家庭集会への参加
6. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 ユービー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈祷会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈祷会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 宰 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫■

「母、逝く」

この四月の十一日(水)に義母、小野静江の葬儀が残雪の散見する青森県日本基督教団七戸教会で執り行われた。厳肅な中にも母らしい明るい雰囲気の中で進められ、母の好きな紫を基調にした献花が母の凱旋に彩りをそえていた。

その前日、僕は母のお骨の置かれた義妹、陽子の実家の部屋で一晩中、母との過ぎ越し方を思い起こしていた。母とは節子の心臓移植の半年前に看護に来て以来、二十二年間一緒だった。それは津軽の実母のそれよりも長い。僕は高校生の時から親元を離れていたもので、義母にも実母と同じような親しみを覚えて接してきたのだった。それだけに家内の死後、三ヶ月もしないで天に召されていった母が偲ばれて心寂しく、その夜、何度も何度も褥をぬらしたのだった。

家内の死から僕は毎日のように涙する。そんな僕に、「もう泣かないで」と言っ下さる方がいる。それは励ましでもあり、心ある叱咤でもある。かつて伴侶の死に際して涙一つ見せない人もいたが、号泣する人もいた。どちらがどうのという事ではないが、思うのは、愛する者の死に直面して、残された者の痛みの深さは誰にも分からないのだから、素直に涙して良いのではないかと思う。

母が昏睡状態に陥って、もう回復の見込みがないと判った時、そこに駆けつけてくれた妹の子供たちが携帯を使ったスカイプで交信ができるようにしてくれた。それは召される一時間前だった。応答のできない母ではあったが、聴覚は最後まで生きていた。そこで息子と二人で「ばあちゃん、元気でね、すぐ会いに行くからね！」と叫んだのだった。もとより応答はなく、ただ平安な母の顔が写し出されていた。息子は母の死を知らされた翌朝、日本に飛んだ。そして納棺式に居合わせる事ができた。それから四日後の土曜日に帰ってきた息子のデジタルカメラに母の死に顔が写し出されていたが、実に平安なものであった。否、むしろ微笑んでいるかのようだった。母は天国で先に召された二人の娘たちと見えていたのであろう。そして心いっばい主を賛美していたのであろう。

葬儀では僕が、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じるものは、いつまでも死なない」(ヨハネ11:25-26)という復活の希望を語った。キリスト教の葬儀に初めて出席した方々も何人か居られたようだったが、彼らの心の片隅にでも聖書の言葉が残っていてくれたならと切に祈らされたのだった。母の安らかな死に顔は、この希望を見せるためではなかったかと、今にして思う。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウェスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

